

シマフクロウの森保全活動 2010年植樹知床地区 2010年評価報告書

2010年10月23日

環境プランナー協議会

恒藤克彦

■ 評価の対象と目的

(財)日本野鳥の会が実施した「シマフクロウの森を育てよう! プロジェクト」による森づくりの2010年に植樹された知床地区、

- ①生物多様性保全からみた環境負荷の把握が実施されている
- ②保全活動の記録管理(作業日誌等による)が実施されている

ことによって、保全活動の管理の履歴が適切に記録されていることを評価する。

■ 実施した評価手続きの概要

評価手続きの概要は以下のとおりである。

1. (財)日本野鳥の会発行の「シマフクロウの森を育てよう! プロジェクト」パンフレットおよびホームページの閲覧
2. 作業日誌の閲覧による、環境負荷の把握
3. 現地査察
4. 日本野鳥の会、現地保全管理者へのインタビュー

■ 結論

結論は以下のとおりである。

1. 提供された情報の内容は、認定基準を満たしている。
2. 環境プランニング学会「森づくり・里山里林保全アセスメントの手引き」の基準により87点/100点となり、「優良」と評価する。

以上

プロジェクト名 “The forest of the fish owl”プロジェクト

2010年植樹 知床地区

作成者 恒藤克彦

作成日 2010年10月15日

承認者

評点合計	87 点/100点
------	-----------

1. 活動の概要				適合項目数	4	評点の平均値	5.0	評点	20 点/20点
評価項目	適否	評点	観察事項の内容						
① 活動目的	適	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植樹によって森林生物が生息可能な森をつくる。 ・ 樹木を育成して、二酸化炭素を吸収する。 ・ 絶滅危惧種シマフクロウを救う。 						
② 活動計画	適	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5年間の管理作業を計画している。 ・ 100年後をめざしたイメージが作成されている。 						
③ 活動地域	適	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知床地方の山林、面積15haで、この周辺ではシマフクロウ1つがいの繁殖が確認されている。国内でもっとも多くのシマフクロウが生息する重要な地域である。半島の先端側の約半分ほどが国立公園や世界自然遺産として保護されているが、それ以外はほとんど法的な保護がされていない。野鳥の会では、今後この地域を対象に野鳥保護区設置を進める計画である。 						
④ 実施主体者	適	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の野鳥保護の先駆者である（財）日本野鳥の会。 						
項目評価コメント		<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年始まった根室地区につづくプロジェクトで、計画もしっかりしている。 							

2. 在来種、従来種、原種管理				適合項目数	3	評点の平均値	3.7	評点	15 点/20点
評価項目	適否	評点	観察事項の内容						
① 樹種選定 種類、本数、産地、 種の原産地	適	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に繁殖するミズナラ、ヤチダモ、ハルニレ、イタヤカエデの4種類、2,000本を計画。 ・ 「環境負荷の把握シート」で苗木の樹種名が「イタヤカエデ」となるところが「ケヤマハンノキ」と誤報告があった。計画と異なる樹種となっているので、気がつき確認が必要であった。 						
② 樹種の地域植生との 合致性（侵入性外来種、 GMO：遺伝子組換体）	適	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミズナラ、ヤチダモは北海道を代表する広葉樹にひとつである。また、イタヤカエデは北海道の楓の中では代表的な木である。ハルニレは、北海道全体に広く適応性のある樹種である。 ・ 苗木の育成地は美幌町。 ・ 仕入先は小寺種苗。 						
③ 苗木仕入先情報	適	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 網走地区森林組合。 						
項目評価コメント		<ul style="list-style-type: none"> ・ 植樹の樹種選定は、植樹においてもっとも重要な項目のひとつである。樹種名について細心の注意が必要であり、管理意識の向上が望まれる。 							

3. 保全活動による環境負荷				適合項目数	5	評点の平均値	5.0	評点	20 点/20点
評価項目	適否	評点	観察事項の内容						
① 苗木の搬入経路	適	5	・ 育成地の美幌町～現地。						
② 苗木搬入におけるエネルギー使用量	適	5	・ 普通車1トン車、美幌町～現地60.0km（往復120km）と適切に記録されている。						
③ 植え付け作業におけるエネルギー使用量	適	5	・ 植樹作業は3日間、延べ16人日で実施されている。使用した車は1.0トン車30.0km（片道）×3日、と適切に記録されている						
④ 付帯作業における資材使用量	適	5	・ 地ごしらえ作業が、植樹の前に2日間、延べ8人日で実施。使用機器類も適切に記録されている。 ・ 植樹後、作業道整備が2日間、延べ2人日で実施。バックホー回送に10トン車トラック使用と、適切に記録されている。 ・ 防鹿柵設置に7日間、20人日で使用資材が単管（4m）92本、ネット630mと適切に記録されている。						
⑤ 付帯作業におけるエネルギー使用量	適	5	・ 1.0トン車 延べ1,012km、4トン車延べ148km、10トン車延べ148kmの使用が適切に記録されている。 ・ 刈払機（使用燃料：混合）を延べ12.5時間稼働、バックホー（64kw）を延べ12.5時間稼働、バックホー（3,920cc）60.5時間稼働と適切に記録されている。						
項目評価コメント			・ 作業は14日間実施され、2,000本の苗木が植樹された。記録は全て適切に記録されている。						

4. 付随的に発生する環境負荷の処置				適合項目数	2	評点の平均値	5.0	評点	20 点/20点
評価項目	適否	評点	観察事項の内容						
① 廃棄物発生量	適	5	・ 苗運搬用の苗木シート10枚は、森林組合で再利用。						
② 廃棄物処理	適	5	・ 地ならし、植樹、その他の付帯作業においても廃棄物の発生はない。						
③									
④									
項目評価コメント			・ 廃棄物の発生はなく、適切な処置がされている。						

5. 森、里山里林の健全度				適合項目数	5	評点の平均値	3.2	評点	13 点/20点
評価項目	適否	評点	観察事項の内容						
① 日が差し込む明るい森	適	5	・ 西側がなだらかに広く展開しており、天空は広く明るく開いている。						

②	植物の種類が多く、よく繁殖している	適	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ミズナラ、ハルニレ、イタヤカエデ、ヤチダモの順に整然と植樹されている。 ・イタヤカエデに樹種の異なるカツラが49本誤植されていることが発見された。苗畑よりイタヤカエデの掘り取りの時に、誤ってカツラを掘り取りそのまま梱包された苗が植樹された。6月の植樹のときは、葉がでていなく、識別できなかった。7月にカツラが植えられていることに気づき、森林組合、苗木店のミスが判明。森林組合、苗木店から始末書が提出され、植え替えることになった。 ・イタヤカエデに枯死が99本発生。同樹種内の枯死率20%を超えたため、再植樹する。 ・ミズナラ、ハルニレ、ヤチダモは枯死も少なく順調に活着している模様である。気候よいためか、根室地区よりも成育が早い。
③	鳥の種類が多く、さえずりがよく聞こえる	否		<ul style="list-style-type: none"> ・森が育成されて評価する。
④	落ち葉が堆積し、土壌がスポンジ状でふわふわしている	適	3	<ul style="list-style-type: none"> ・切り株があちらこちらに残る傾斜地で、表土は赤土がそのままのところが多い。水平なところは、落ち葉等の堆積物も少しあるが、豊ではない。これから腐葉土の形成をしていかなければならないが、傾斜地の表土の流出に注意が必要と思われる。
⑤	土壌に棲む生き物が多い	適	3	<ul style="list-style-type: none"> ・腐葉土の形成が少なく、表土は乾燥気味である。しばらくは、樹木の成育を待つ必要がある。
⑥	美しく、気分が休まる	否		<ul style="list-style-type: none"> ・森が育成されて評価する。
⑦	一本一本の木が元気で、炭素の吸収が盛ん	適	3	<ul style="list-style-type: none"> ・1年目の苗木としては、よく成長している。これからの楽しみである。
⑧				
項目評価コメント		<ul style="list-style-type: none"> ・樹種の誤植があり、植え替えが発生する。誤植で植えられたカツラ49本は、折角の苗も廃棄されることになりそうである。森林組合、苗木も反省されており、今後、このような事が再発しないように管理のレベルを向上させることが望まれる。 		

総合評価コメント

- ・大変広い地区に2,000本の植樹が実施された。作業も14日間行われ、重機も使用されるかなり大がかりな植樹となった。
- ・植樹地は傾斜面で作業もかなり大変であつと思われるが、生きている切り株はそのまま残されるなど、生物多様性からも好ましい状況を維持しながら実施されている。
- ・植樹された苗は、イタヤカエデを除いて、ヤチダモ、ミズナラ、ハルニエはよく成育している。イタヤカエデは、枯死が20%以上発生し、カツラの苗の誤植もあつて、植え替えが行われるが、その後の成育を見守る必要がある。
- ・カツラは、北海道立林業試験場の資料によると、知床の南地区から根室の北地区に掛けては植樹に対して「要注意地区」となっており、植樹の苗を掘り取りする際に特に注意が必要な樹種であると思われる。管理意識の向上が望まれる。

2010年9月29日 11:50~12:40 天候：晴れ

1) 植樹地の状況



2) 切り株から萌芽しているものは、そのまま残してある。植樹地の下部は、上部とちがってクマザサなどもあり、落ち葉なども少し堆積している。



3) 鹿よけのネットは、総延長 630m になる。



2) 植樹された樹木の状況

①ミズナラ



②ハルニレ



③イタヤカエデ



④ヤチダモ



3) 現地調査状況

- ① 植樹地の上部は、表土が剥きだし状態で乾燥気味である。小さな苗が早く成長して、落ち葉が堆積する状況に早くなることを期待する。



② 苗木の状態調査



③ 協賛者の立て看板

